

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100101		
法人名	有限会社 介護センターみつわ		
事業所名	グループホームみつわ		
所在地	三重県南牟婁郡御浜町志原1698-50		
自己評価作成日	平成22年2月5日	評価結果市町村提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2473100101&SCD=110>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 2 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全体で「グループホームみつわ」が家庭の延長上にあるとして考え、アットホームな居心地のよい空間作りをしています。
利用者のできる事はしてもらおうという基本理念を持ち、あたたかく心のケア、その人らしい生活を追及していきたいと思ひます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

できるだけ家庭に近い環境のもとで共同生活を送り安定した生活が送れるように、日中は利用者9名に対し3名～4名の職員体制を原則としているグループホームである。建物の周辺には、みかん畑と数々の言い伝えのある世界遺産が点在し古い史跡がある町である。H16年3月に開設したホームは、鉄骨造りの1階建てバリアフリー式平屋作りで2ユニット(18名)になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に優しい生活空間・自由な生活空間」を提供することを基本理念とし、ミーティング時に職員に理念を伝え職員全員が共有するよう、日々努力しています	運営者以下職員は、地域社会から信頼される施設づくりを目指し、安心・安全な暮らしと家庭的な環境の下で利用者と共同生活を営み支援することを基本理念に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを開催し、新聞広告掲載やチラシを配り、たくさんの地域住民の方に参加していただき、地域ボランティアの方にもご協力いただきました	御浜町、熊野市、紀宝町に呼びかけ夏祭りが盛大に開催されている。自治会に加入し地域の行事等に参加をしている。また、管理者は民生委員を対象に「認知症とケアについて」の講座を開催する予定で現在準備をされている。	民生委員を対象とした講座が開催される予定で管理者が講師を務められるとのこと、さらにリーダーシップをとっていただき認知症のプロとして地域とのつながりを広げ、サーポータの増員を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭り、運動会などに職員と一緒に参加したり、散歩時に地域の人々と会話したりして、理解していただくよう努力しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で地域住民・家族の方たちからよせられた助言・意見を参考に職員同士で話し合い、より良いサービス向上を目指して取り組んでいます	2ヶ月に1回開催している。行事案内、施設内で起きたことなどを議題に話し合いが行なわれ、対応の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	御浜町が開催する研修等に積極的に参加し、取り組み方を相談したり、地域包括の職員の方も運営推進委員会に参加していただいているので、助言・意見をいただいたりして協力関係を築くようにしています。	事業所で問題が起きると相談したりしている。また、スプリンクラーの設置で頻りに町へ出向き相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」がホームの理念の一つでもあり、職員全員が理解しています	玄関に「自由な発想、気ままな生活を」が掲げられ管理者や職員は利用者の行動をできるだけ制限しないように見守り、玄関は自動ドアで開閉を自由に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には積極的に参加して防止に努めホームでの勉強会を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会は今のところありませんが、利用者の方で権利擁護を利用されている方がいたのでこれから積極的に学んでいきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人と家族によく説明し、理解してもらってから同意書にサインしていただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話に耳をかたむけ、意見や不満がないか確認して、職員全員が把握し外部との交流の時に議題とし色々な意見を聞き、改善するよう努めています	運営推進会議において家族からの意見や要望を聞き、職員間で話し合ったりして運営に反映させている。また、面会のときにはできるだけお話を聞き、意見が出るように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をよく聞き、ホームを運営するよう努めています	管理者である取締役社長が、職員の意見や提案を聞く場を設け反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の得意分野をいかし、また苦手な分野等は勉強しあって向上心を伸ばせるように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に積極的に参加し、参加者は資料をコピーして他の職員に伝達しています。職場内でも課題を設定して行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等のネットワークを通し、交流できるよう努めています。また、地域の研修会に参加した時など、同業者と交流するよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入った利用者のアセスメントを確実に 行い、利用者の思いを受け止め、また推測 し利用者が不安にならないよう最大限の努 力をしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族がいつでも相談できるように職員と話 す時間をつくり、不安や希望等を聞くように 努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のニーズを把握し、対応してい けるよう職員全員意識しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員からの一方的な働きかけではなく、利 用者から気軽に思いを伝えてもらうよう働き かけ、共に支えあう関係づくりを目指してい ます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族にホームの行事等に参加してもらえる よう働きかけています。月に一回、職員から 家族に生活状況を手紙で報告して、共に本 人を支えていく関係づくりをしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の話をよく聞き、馴染みの場所や人 等の事を職員が把握し、サポートするように 努めています	馴染みの方の訪問もあるが、墓参りやふるさ との自分の家へ出かけた時は職員が付き 添い支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	レクリエーション・行事・食事等を通し、利用 者同士が交流できる環境づくりを行っていま す。強制はせずに本人の気持ちを を尊重しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事等、何かあればいつでも相談に乗れる体制を作っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の話をよく聞き、希望や意向の把握に努めています	本人からの聞き取りが困難な場合は、本人本位で検討を行ったり、家族の方に聴取し、希望や意向の把握に努めるが、一人ひとりからも出来るだけ思いを聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に話を聞き、個々の生活歴や意向等、アセスメントを通し職員全員が把握しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記録し、申し送り、職員全員が把握しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の話をよく聞き、職員同士が意見を出し合い、介護計画を作成しています	申し送りノートを作り「個人日誌」に日常生活情報を記入したものを基に介護計画を作成し、3ヶ月毎の見直しが行なわれる。本人の状態に変化あった場合や、主治医から指示ある時は現状に即した計画の変更やモニタリングが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を職員全員が周知し、よりよいケアができるように努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時には着替えを届けたり、洗濯の支援をしています。可能な限り柔軟な支援を行うよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方に協力をお願いして、利用者に関わる機会を作っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医への通院を支援しています	受診ノートを作り一人ひとりの健康管理をしている。在宅当時の医療機関を優先し、家族が通院困難な場合は職員が付き添い支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護職員に相談しながら日常の健康管理を全職員で支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談等できる関係を築いています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者の家族と話し合いを行い、当グループホームでできる事等十分説明をして理解してもらっています。	医師の往診体制が出来ていないが、幸い入居者の方で看取りまでには至っていない。家族・看護師等と重度化や終末期に向けたあり方について話し合い、指針についての検討も一年かけて行なわれている。	前年度指摘の「ターミナルケアについて」再度家族、主治医、関係者等と話し合っただき「重度化した場合の看取りの指針」作成に尚一層の努力を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して急変や事故発生時に備えて職員全員が対応できるようにしています。 年2回救急法の訓練をしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、全職員参加で避難訓練を行い学んでいます	年2回消防署の指導で避難訓練を行うとともに火災発生時の避難経路を3パターン作成し入居者と職員間で確認合っている。また、玄関のカウンターの下に非常持出袋、担架、電池、笛、ブザー、火災警報専用電話機を取り付け初期消火の対応をしている。現在スプリンクラー取り付け工事を行なう等災害時対策の意気込みが感じられる。	実際の災害避難訓練参加を運営推進委員会メンバーに呼びかける等お願いしたり、感想や気づきを職員等と話し合い会議の議題に取り上げる等して安全面等での再認識をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの尊厳を損ねないケアのため職員間でも注意しあっています	馴れ合いで本人の尊厳を無視した対応にならないように心がけ、一人ひとりの存在を重んじる声かけ、対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の返答能力に応じた質問方法等で思いやりや希望などを聞き出すようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとり、その日の様子をみながら、その人のペースに合った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ、ホームでカットしてもらったり、望む店でカットしてもらっています。身だしなみやおしゃれは本人の希望に沿って支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得意分野をいかし、手伝ってもらっています	社長が食材を吟味し選んで買い物をしている。利用者に、たまねぎの皮むき等してもらい専属のパート職員が調理をする。自力摂取の方もいるが、半介助の方もあり職員も一緒に食べながら介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量を記録しています。個人個人の食べたいものを把握しています。水分については1日1000ccを目安に摂取できるよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるよう1人1人の口腔ケアチェック表を作成し、それをもとに毎食後の口腔ケアに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一律的な排泄ケアはせず1人ひとりにあった排泄方法、パターンを把握し支援しています	パットの使用者が4名、オムツ使用が1名あり、それぞれの排泄パターンに応じた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、記録している排泄チェック表を活用し対応しています。医師の指示のもと服薬によるコントロールがなされている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援しています	週3回の入浴で、本人の希望の時間に入ることができ、一人ひとりが入浴を楽しんでいる。また、浴槽内には手づくりの「檜の底上げ板」を敷き湯量を調節するなど「安全」が工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こちらで決めず状況に応じて休息・入眠できるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者一人ひとりの服薬状態を把握し、支援を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの趣味や能力等を把握し、役割を作り楽しんで生活していけるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員付き添いで散歩して楽しんでいただいています。季節ごとの行事で花見、日帰り温泉旅行、足湯など外出できる機会を作っています	車椅子使用で散歩が困難な方も見えるが職員の介助で出かけている。季節ごとの花見に出かけたり、簡保の宿に日帰り温泉旅行に出かける等楽しみが大きい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しています。能力に応じ外出時に本人にお金を預け、職員が付き添い自分の欲しい物を購入していただいたりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話をしたり、手紙のやり取り等の支援をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を展示したり、各行事の写真を掲示しています。利用者と一緒に飾り付けをし、なじみやすい共用空間作りに努めています	食堂兼居間のコーナーが畳になっており、職員の記録を書く場にもなっている。その居間に滑車が数台取り付けられ自由に筋カトレーニングに励むことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置に気を配り過ごしやすいスペースの確保に努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使っていたタンス等、使いなれた物を使っています。家族の写真を飾ったり、その人らしい居室づくりをしています	ベット、エアコン以外は自由に持ち込み出来るよう特に制限はしていない。家族の写真を飾ったり他の方の部屋もこざれいに片付けて明るく落ち着いた部屋である。床はクッション性の材料を使用し転倒防止対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの配置等、身体機能の低下に合わせて工夫しています		